

会議名	第3回麻布地区サロン事業業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和6年1月11日(木)午後3時から午後4時30分まで
開催場所	麻布地区総合支所3階 第1会議室
委員	麻布地区総合支所長 富田 慎二(委員長) 麻布地区総合支所区民課長 川口 薫(副委員長) 麻布地区総合支所管理課長 佐々木 貴浩(委員) 保健福祉支援部保健福祉課長 野上 宏(委員) 保健福祉支援部高齢者支援課長 白石 直也(委員)
事務局	麻布地区総合支所区民課
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果 資料4 第2回選考委員会議事録概要 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書(案)
会議の内容	
事務局	1 開会 (委員長より開会の挨拶、事務局より事務連絡) 2 第二次審査実施概要について (事務局より資料1について説明) 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 (A事業者による説明) 各委員より質問をお願いします。
A委員	来年度から実施する麻布いきいきプラザでの土曜日開催について、具体的にどのようなプログラムの実施を検討していますか。

A事業者	<p>まずイベントのようなプログラムを行い、その後、過去にニーズが多かったプログラムを実施したいと考えています。例えばものづくりやコンサート、地域学習、地域と連携するプログラム等です。また、土曜日開催のため、平日とは違う層が参加する可能性を踏まえ、新しいプログラムを企画していきたいと思います。例えば、地域で活動されている音楽グループ等と連携して盛り上げていきたいと考えています。</p>
A委員	<p>広報活動にSNSを活用することについて、具体的な方策を教えてください。</p>
A事業者	<p>法人のホームページで活動予定、チラシ、活動報告を掲載します。また、X（旧 Twitter）や Facebook を用いて早く、広く情報を伝えることを検討していきたいと考えています。</p>
A委員	<p>一人で来られない方に送迎を行うことを検討しているとのことですが、具体的にどのように運用していくのか教えてください。</p>
A事業者	<p>ボランティアや民生委員、介護予防リーダー等を活用して、対象者の自宅や近隣で待ち合わせして現地まで同行することを考えています。一人で来られない方も、来れば満足してもらえんと思います。高齢者が外に出ることを促したいと考えているので、成功事例をつくり、少しずつ進めていきたいと思います。</p>
B委員	<p>今後の活動にあたり、特徴にしている点や発展させていきたい点を教えてください。</p>
A事業者	<p>寺院や大使館との連携がまだ十分とは言えません。ただ、理事に寺院の住職がいるので、今後の活動に繋がると考えています。また、プログラムとして行ってきた「モルック」はフィンランド発祥のゲームで、ありすいきいきプラザの近くにフィンランド大使館があるので、フィンランド大使館に声掛けをして一緒にプログラムを楽しむことができると考えています。その他、大使館の特色や文化を紹介してもらうような交流企画ができたらと思います。</p>
B委員	<p>活動の周知について、いきいきプラザや高齢者相談センターとの連携は具体的にどのように行いますか。</p>

A事業者	いきいきプラザの参加者との交流があまりできていない状況で、これまでポスターやチラシの掲示を依頼していましたが、直接声掛けし、サロンに参加してもらうようお願いしたいと考えています。また、私たちがいきいきプラザの事業に参加し、参加者に直接声掛けや周知を行いたいと思います。さらに、高齢者相談センターに相談に来た方にサロンに参加してもらえるよう、声掛けをしてもらいたいと考えています。ふれあい相談員にも訪問時にチラシを配布し、声掛けをしてもらうようお願いしたいと思います。
C委員	人員体制について、16名の職員は常勤職員として在籍しているのでしょうか。
A事業者	事務局に4名の常勤職員が在籍しています。それ以外は専門職として他の事業所で仕事をしており、事業の際に集まり、スタッフとして活動しています。
C委員	16名の職員の定着率は高いでしょうか。
A事業者	高いと思います。今年度1名増員しましたが、それ以外は最低でも5、6年活動しています。長い人では、前身の法人を含めると10年以上になる人もいます。
C委員	常勤職員とそれ以外の職員で役割分担はありますか。
A事業者	ニーズを把握したり、連携のきっかけをつくるのは専任の職員です。それ以外の職員は、その後実際にお話をしたり、繋がりづくりをします。
C委員	これまでの実績を踏まえ、次期に向けて拡充していくポイントを教えてください。
A事業者	長期的ビジョンでも挙げましたが、まずはプログラムを充実させ参加者を増やしていくことを目指します。また、ニーズに応えるため、参加者の声を聞くことも重視したいと思います。現在の活動は、交流したり話し合いをすることが十分ではないと感じているので強化していきたいです。また、地域に向けた意識を高めるという点もポイントになります。ボランティアが地域に目を向け、地域の目として見守りを行えるよう、地域への関心を高めていきたいと思います。また、

	いきいきプラザとの連携事業を年に何度か実施する等して、関係機関との連携を深めていきたいと考えています。
D委員	ボランティアネットワークとは、具体的にどのようなものを構築していきたいと考えていますか。
A事業者	ボランティアの層を広げるという観点で、区内の大学への声掛けを行いボランティア養成講座等に出席してもらおう等して、学生ボランティアを増やしたいと考えています。また、サロン参加者の中にもボランティアができる人がいます。年齢層を広げつつ、ボランティア同士が交流できる場を年2回程度設ける予定です。これらをボランティアネットワークと考えています。
D委員	養成したボランティアを、どのように事業で活用していこうと考えていますか。参加者の送迎以外に活用方法があれば教えてください。
A事業者	地域での声掛け、例えば街中で会った時に声掛けをしてもらうこと等を考えています。高齢者にとっては自分を気に掛けてくれる人がいるのはとても心強いことです。サロンの前後に行うミーティングでもこのことを伝え、必要な時に声掛けを行うよう促します。合わせて、法人としての考えを伝えることを心掛けていきたいと思えます。また、様々なスキルや経験を持つボランティアが多くいるため、それを活かせるプログラムを企画していきたいと思えます。
D委員	今後、この事業の評価をどのように行い、必要な改善や見直しを行いますか。
A事業者	量的評価としては参加者数を評価対象として考えています。周知の成果が直接的に現れるので、新規参加者を多く増やすことを目指したいと思えます。質的評価としては、参加者に聞き取りやアンケート調査を行い、ニーズの確認や、サロン参加により自分の気持ちが変わったか、生活に変化があったか、参加して良かったこと等を確認します。調査結果を分析しながら、次の事業に活かすとともに、ニーズの確認が非常に大切なので、それを見極めていきたいです。
E委員	各地区の特色や印象の違いがあれば教えてください。

A事業者	<p>4か所の違いは大いにあると思います。例えば飯倉いきいきプラザは、高齢者人口が比較的少ないので、町会、自治会、老人クラブに声掛けして幅広い層が参加しています。ありすいきいきプラザは高台にありますが、子どもや高齢者の施設が隣接しているほか、ちいバスの停留所もあり、関心が高いことが特徴です。西麻布いきいきプラザは赤坂青山エリアに隣接しているので、そこから参加する人もいます。古くから住んでいる人も多いです。南麻布いきいきプラザは社会福祉協議会とつながりのある方もいらっしゃいます。どの地区も落ち着いた人が多いと思います。</p>
E委員	<p>ボランティアの定着に向けて工夫していることがあれば教えてください。</p>
A事業者	<p>ボランティアはそれぞれが様々な特技を持っています。ボランティア発案のプログラムを企画することで活躍の場をつくったり、サロン後のミーティングで振り返りを行い、課題に取り組んでいます。また、ボランティアに丁寧な聞き取りを行い、困りごとは早期に解決することで、ボランティアの心のケアをしています。参加して楽しいと思ってもらえるような雰囲気づくりと、ボランティア同士が交流し、お互いが助け合うような雰囲気づくりを心掛けています。</p>
E委員	<p>将来的にこの事業をどう進めていきたいか教えてください。</p>
A事業者	<p>サロンは一つの形であり、本来の目的は地域の高齢者がいきいきと自分らしく安心して暮らせる街をつくることです。そのためには人材、連携、ボランティア、集う場がたくさんあることが必要と考えています。</p>
事務局	<p>A事業者の質疑を終了します。</p>
<p>4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について (事務局から資料3について説明)</p>	
委員長	<p>各委員から講評をお願いします。</p>
A委員	<p>現状の課題認識をしっかりしていること、麻布いきいきプラザで行う企画内容が具体的に見えたことを評価しました。また、実現できる可能性の高い内容を盛り込んでいた点を評価しました。</p>

B委員	<p>十分な実績があり、事業の主旨をよく理解していて、意欲もあると感じました。他の項目については、及第点としました。</p>
C委員	<p>人員体制を中心に質問しましたが、心配は杞憂でした。意欲も強く感じましたし、質問と回答がしっかり噛み合っていました。ヒアリングの印象も良く、高評価としました。業務主旨の理解、提案の実現性、提案の発展性については安定した体制で事業を進めてもらえると感じました。</p>
D委員	<p>業務主旨の理解度は高いと評価しました。加えて、提案が実現できる人員体制である点も確認しました。課題として挙げていた参加者の増加については、取組が参加者の増加へ実際につながるのか見えてきませんでした。理解・回答力と取組意欲については、分かりやすい回答とプレゼンテーション内容及び態度から評価できると感じました。</p>
E委員	<p>麻布地区の特性を踏まえており、理解度も十分だと思います。これまでの実績もありますし、いきいきプラザ等の他機関との連携も見えました。提案した周知方法により、利用者増加につながるかは弱いと感じましたが、懸命な姿勢は見えました。今後の発展性を期待した上で点数を付けています。質問に対する回答もしっかりしており、意欲も感じられたため、この事業者にお願いしたいと思いました。</p>
委員長	<p>それでは、自身の採点について振り返る時間を設けます。採点を変更する場合は挙手の上、口頭でお願いします。事務局が再度集計します。</p> <p>(委員一同、意見及び変更なし)</p> <p>変更がないため、再集計は行いません。二次審査の評価点数は 598 点です。第一次審査及び第二次審査を合計した総合点数は 1506 点となります。この点数で決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p> <p>選考基準で第一次審査及び第二次審査のそれぞれ満点の 60%を基準点としております。二次審査の満点は 750 点、その 60%は 450 点のため、この基準を満たしています。したがって、当委員会としては A 事業者を事業候補者として選定することとしますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p> <p>ご異議ございませんので、A 事業者を事業候補者として選定いたします。</p>

	5 閉会 (委員長より閉会のあいさつ)
--	------------------------